

# 提携米通信

2020年7月号・黒瀬農舎



マガモ君たちも応援に駆けつけてくれました。

今年は田起しや均平作業時期が悪天候で、田植えは少し遅れ気味で5月末に終わりました。田植えが終わると、超特急でマガモ君の受け入れ準備と、第一回目の除草機掛けです。そのマガモの受け入れ前には2つの仕事が必要です。

一つは、餌場や休憩用のテント小屋の設置。もう一つは、マガモの脱走防止と野犬や狐など野獣の襲撃を防ぐためのネット張り・柵作りです。

ネットは、高さ1m程度の低い網ですが、総延長距離は3km近くに上り、支柱や網など多くの資材や手間が必要な大仕事です。

でも、柵の設置を何年も続けていると、だんだん要領がよくなり、最初の頃に比べれば数倍の能率で完了できるようになりました。

上の写真は、マガモ軍団が山形から到着した直後です。今年は孵化から十日余り経った少し大き目のヒナです。

到着後、数日はこの囲いの中で飼慣らし、稲が根付けば放鳥です。早く離すと稲が傷み、また、遅過ぎると雑草が退治できなくなる。このタイミングの見極めが大切です。

また、マガモの数は、多くすればするほど雑草退治には効果的ですが、マガモの数が多過ぎれば稲が傷められるので、放鳥数の見極めも大事なのです。

放鳥を始めた頃はカラスにヒナが大量に殺害されましたが、防止策を会得し被害は少なくなりましたが、今年は害獣（多分キツネ）に1晩で100羽以上殺害され、山形から援軍を迎えました。このマガモ軍団は7月10日過ぎまで活動し、故郷に引き上げる予定です。

## 提携米 黒瀬農舎

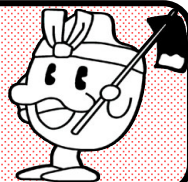
〒010-0445

秋田県南秋田郡大湯村西1丁目4の7

黒瀬 正・友基

TEL: 0185-45-3088 FAX: 45-2887

E-mail: [akita@kurose.com](mailto:akita@kurose.com) Web: [提携米 黒瀬農舎](http://提携米 黒瀬農舎)



★定期購入の場合も、変更や前倒しの出荷、休止はいつでも対応いたします。  
★変更や休止は次のお米のお届けの5日ほど前までに連絡下さい。  
★お米のご贈答利用も宜しくお願いたします。

★電話は土日祝日も含めて朝8時～夜8時頃まで対応致します（自宅兼事務所）。但し、電話受付の専任スタッフはいないため作業中や外出などで留守番電話での対応となることがあります。ご了承願います。

また、メールもぜひご利用下さい。なおメールは原則すべて返信していますので、返信メールが届かない際は自動的に迷惑メールとなっている可能性もあるので迷惑メールの確認やメールの設定をご確認下さい。

## 一段と進んだ手作り乗用除草機の改善

わが農舎の場合は、一年で6月が一番忙しい時期に当たります。

それは、除草剤を使わないお米作りの宿命である雑草対策に追われるからです。

また、この雑草対策の時期は、忙しいだけでなく、種々の雑草対策処置の見極めや、その条件の不安定性などに振り回されるなど、神経をすり減らされる時期でもあります。

7月を迎える前後は、まさに心身ともに疲労困憊<sup>こんぱい</sup>の極限です。

しかし、草取り作業は6月に終わる訳ではありません。収穫時期までずっと続くのですが、稲作初期時である6月の雑草対策の成否が、その年の雑草との闘いの勝敗をほぼ決める時期となるのです。

軟弱な地盤の当地の田圃でも、何とか人が乗ったままで除草機掛けができるようになりました。でも、オペレーターの減量は大切のようです。



この時期、的確な雑草対策に成功しておれば、夏、秋の除草作業は大幅に軽減されます。

一方、この初戦に負け越せば、イネは雑草まみれになり、収穫皆無の部分が出たり、灼熱の真夏も休めず、秋の収穫時期まで、毎日毎日草取りに頑張らねばならない事態に陥ります。

昨年冬の工作として製作した乗用除草機・・・昨年の草取りで始めて使い、ほぼ成功しました。

「成功」とは言っても、すべて成功し、完成した訳ではなく、まずは、当地の軟弱な地盤の田圃で、沈車せずに、ほぼ安定して動き回れる乗用機械に仕上げることに成功したのです。

30年前に使われていたヤンマー製の中折れ、前植え型の古い小型乗用田植え機を青森県の八戸で見付け、持ち帰り、分解整備。元々の車輪を全部除去し、細い空気入りのタイヤを各地から買い集め、シャフトなど加工し、ダブルにして取り付けけた結果、軟弱地盤を乗り切ることになりました。

一方、この本体に取り付けられるように加工した特性の除草機も、期待以上の成果を発揮してくれたので「ほぼ成功」となった訳です。

今年は、この除草機部分の一部改良と、除草機後部に取り付けた雑草除去ブラシの改善などの工夫工作を行い、ハードの改良工作は完了しました。

次は、この特製機のソフトです。

一番大事なことは、この除草機の投入時期の適正化です。

鴨の放鳥同様に、早過ぎれば、稲を傷めます。逆に、遅ければ、大きくなった雑草を取り残します。

また、軟弱地盤で沈まないとは言っても、何度も何度も入れば、沈みます。3、4回が限度です。いつ投入するのが効果的かの見極めも大事です。

今年は、この使い方などソフト改善を追求することが主流でした。雑草対策は、昨年に比べ、だいぶ向上したようです。



後ろに付けたブラシも少しは効果があるようです。